

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-〇〇〇〇
施設名	〇〇保育園
施設所在地	新宿区〇〇 1 - 1 - 1
法人名	社会福祉法人〇〇会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ダンボール遊び

<テーマの設定理由>

保育室の中にクールダウンスペースとしてダンボールを設置したところ、みんなでダンボールに入り興味を示していたため沢山のダンボールを用意するとどのような遊びや発見をするか研究するため。

2. 活動スケジュール

7月1日、4日、19日 とんび組保育室（全員）
9月20日 ホール（4グループ、1グループごと）
10月3日 ホール（4グループ中、2グループのみ1グループごと）
10月8日 ホール（4グループ中、残りの2グループが一緒に）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ダンボール、ガムテープ、マジック（アトライン5mm）
ダンボールは大きさや深さ、形が異なるものを25箱用意し、子どもたちの自由な発想に柔軟に繋がるようにした。1グループごとの活動になってから必要に応じてダンボールを追加できるよう用意していた。

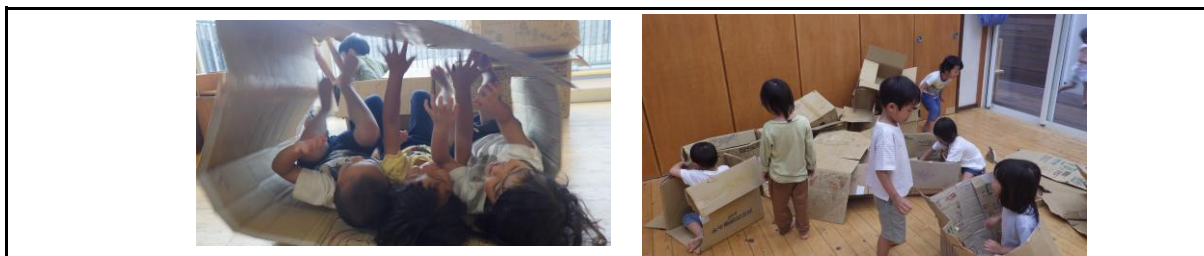
4. 探究活動の実践

<活動の内容>

素材を見せながら自由に使用して良い旨を伝え、子どもたちの自由な発想で好きなようにダンボールを使って遊ぶ。子どもたち同士イメージを共有していく中でやりとりも増え遊びが深まっていく様子を観察する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

はじめのうちは1人1つダンボールを持っていたりそれぞれが個人でどのように使うかを考えている様子が見られた。誰かの面白い発想には他の誰かが共感したり、素材を共有し始めることで子どもたち同士のやりとりや遊びが生まれていく。「面白いね!」「すごいね!」「次はこうするのはどう?」など活発に言葉のやりとりが行われる。保育者はそばで見守りながら、どの子のどんな小さな発見にも共感し寄り添うようにした。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちの自由な発想から広がっていく遊びは新しい人間関係ややりとりを生み出す。物語や空想の世界だけではなく実体験をもとにごっこ遊びをすることが出来る。子どもたちの発見や言葉に丁寧に共感することでさらに遊びへの意欲や想像力は育まれる。